

## 包み込む社会とは

北九州市人権啓発映画制作に関する検討会議委員長 中島俊介  
(北九州市立大学 地域創生学群教授)

なぜ包み込む社会が必要なのでしょう。私たちは自分への関心と同じように「他者への関心」を持つことが大事だとされます。自分の行動がより大きな共同体のためになるように積極的に活動しようとするのが包み込む社会の理念です。このような地域に貢献しようとする個人の感覚は「共同体感覚（他者への関心 social interest）」と呼ばれます（アドラー心理学）。この感覚は三つの側面を持ちます。①私は共同体の一員だという「所属感」 ②共同体は私を助けてくれるという「信頼感」 ③私は共同体のために役立っているという「貢献感」の三つです。これらの融合した感覚の育成と発達が包み込む社会では望まれるのです。

映画の中ではこの共同体感覚を失ってしまった人物が描かれます。地域で孤立した一人暮らしの波岡康弘です。そしてその彼のかたくなな心と何とかつながろうとする福祉協力員（別名、見守り隊）の照井邦子の日常的な活動が描かれます。一見「おせっかい」に見られる邦子の行動に東京から転居してきた亜紀は影響を受けます。その結果、亜紀は包み込む地域社会実現への関心を高め、彼女自身の共同体感覚を育てていくことになります。

私の恩師の言葉です。「無関心は心の死である。他者の苦しみを見て見ぬ振りをすることによって、自分の心の大切な何かをマヒさせ、死にいたらしめている」。この映画は、心の死を感じていた人たちの蘇生のドラマです。そして蘇生に必要なのは他者への関心であり、「独りぼっちな死を迎えさせてはならない。孤独や寂しさを感じさせてはならない」という地域社会を支える私たちの強い意志と行動であることをこの映画は訴えているのです。



北九州市人権推進センター（人権文化推進課）

TEL (093) 562 - 5010

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4 大手町ビル（ムーブ）8階